

## 「歴史の真実」をありのままに学びましょう

前の項の「自然科学」のところ、人間の力ではどうにもならない事柄言い換えると「自然の掟」というものがあり、すべてはこのことを前提として生きていかねばならないということは理解できたと思います。人間の知識や心を除いた客観的な自然の姿＝人間のちからではどうにもできない事実＝客観的な科学的な「宇宙論」「地球論」「物理学」「生物学」「医学」その他多方面にわたる「自然科学」の知識を身につける方法を説明しました。

これからは「人間」にかかわる、または「人間」の力で支配できる領域に関する学問について説明します。「社会科学」と「人文科学」という学問分野です。

これも基本的には中学や高校の歴史の学習内容についての教科書や参考書の内容がきちんと理解できておれば核心部分は理解できたこととなります。とくに最近の中学の教科書はたくさんのきれいな写真や図表が付いているのでとてもわかりやすいです。しかしこれだけでは生きていく知識としては少量や正確さが足りません。たとえば国家間の紛争の原因や移民や人種問題を理解するには十分とは言えませんので、できたらもう少し詳細な歴史の知識や資料を身につけて下さい。そのためには高校の歴史参考書や資料集が十分でなおかつ比較的公平な記述がなされていると思いますのでこれを一人一人が「人生の指導書」として持つておくことが必要であると思います。実は中学生の教科書は文部科学省の検定が厳しく、その時々支配者（＝政府）の思惑が教科書に反映される傾向があり、歴史の真実がかなりゆがめられています。しかし高校の教材は大学の教授や学者が共同で作りますのでかなり正確で歴史の真実にあっていると考えられます。中学高校レベルの教材を以下に少しだけ列挙します。森館長お薦めの中学の歴史資料集と高校の歴史参考書と資料集を紹介します。

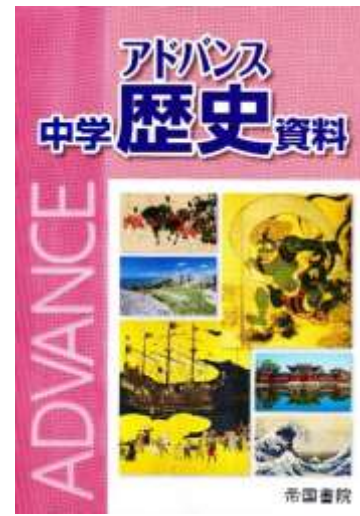
前もって述べておきますが、「歴史小説」や「歴史ドラマ」などは読んでいてまた見ているのが楽しいのですが、およそ「歴史学とは程遠い（＝学問的な歴史の真実とはかけ離れていることが多い）」ということをしつかりと頭に入れておいてください。その意味では「学者」は信じてよいが、「小説家」はそのまま信じてはいけないということです。ただれ歴史のドキュメンタリー番組などは真実であることが多いので信じてよいと思います。

ここでも繰り返し述べておきますが、森館長はその基本的スタンスとして「学者をととても尊敬している」ことをご理解ください。館長の社会論サイトも多くのすぐれた学者の意見を基に構成しております。今日ではテレビには多くの御用学者（＝政府や番組制作者や大きな企業の利益ことばかり考えて意見を述べる学者）が出演しており、多くの人々が彼らに誘導されて「自分の意見を政府や強い者のものの考え方に従うように飼いならされている」こと、つまり「世論操作」がテレビでなされているのを見ると悲しくなります。塾の生徒たちによく言う館長の言葉なのですが、「勉強をどこまでしたらよいのか、それはテレビや新聞やネットの嘘が見破れるまでなのです」というのはこのことを前提に話しているのです。自分はテレビやネットやあてにならない世論に左右されない、自分で学習した知識で物事を判断するという強い意志をもって今後も学習してください。このことは特に歴史を学ぶ上で大切なこととなります。

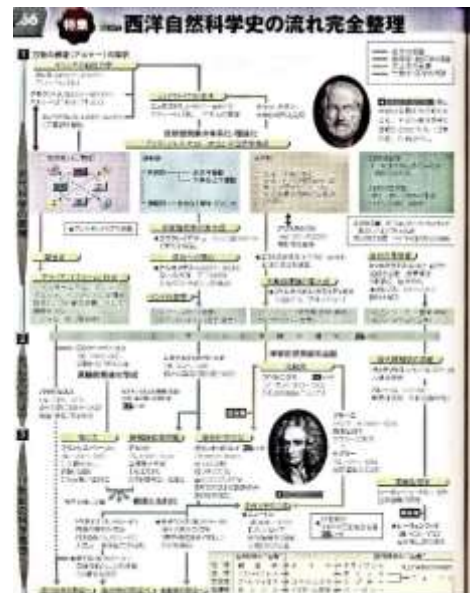
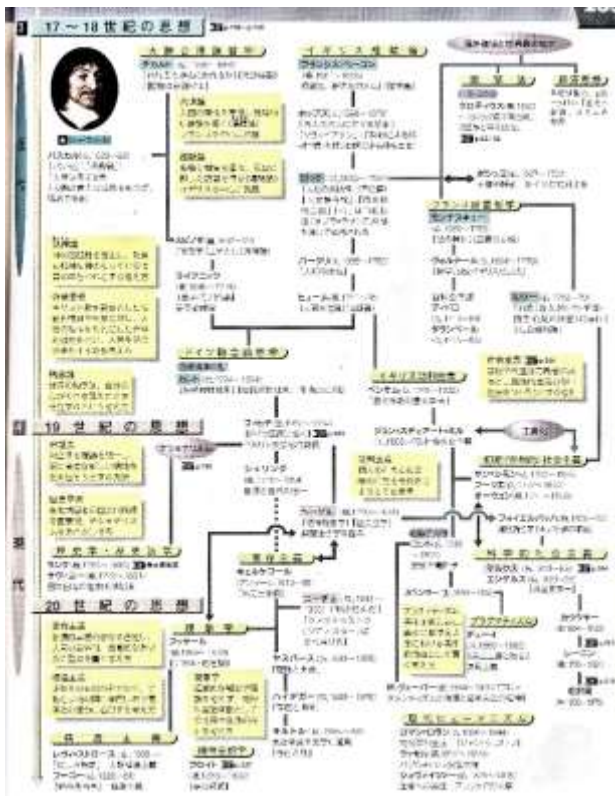
【右の 2 冊】高校生教材として有名な<山川出版社>の高校の日本史と世界史の参考書です。世界史を優先して学習してください。自分の国なのですが、日本は極東（＝東のはずれ）の小さな国なので、ここから見ても世界は見えません。



【下】「アカデミア」と「タペストリー」は高校生用の歴史資料集です。下2枚の写真はこの「タペストリーやアカデミア」の自然科学史と近代思想史のページのごく一部の写しです。著作権者の許可は更けておりません。虫眼鏡などを使って(笑)よく見てください「世界の自然科学や思想の歴史が見事にわかりやすく図表」になっています。しかもなんとこれが¥900なのです。信じられません。私は友人に「5万円したとしても購入すべきである」といつも宣伝しています。皆さんも家庭に1冊備え置きしてください。このような素晴らしい教材がわずか¥900で手に入る時代なのに「歴史がわからん」とか、なにも勉強しないで偉そうに構えている政治家たちが「それは歴史観の相違だ」などの的外れなことを言っているのが耐えられません。館長は社会論サイトで「学ぼうとしない人たちが人類の平和や将来をこわしているから、もっとしっかり学ぶべきである」と考えて、懸命に自分の能力以上のことをしているのです。【下右2冊】①現在志成館で使っている最新の素晴らしい教材②中学の現場の教師が作成した評判の「歴史教科書」です。



【下】哲学や社会科学の年表です。【右底】は自然科学の歴史年表です。前の項で「自然科学」を述べましたが、その流れがしっかりと理解できるのです、わずか¥1000程度の高校生教材で!!



上の枠の中で「歴史を学ばない人が社会をこわしている」と述べました関係で、①志成館の最近のASSETSと②昔館長が書いていた歴史の大まかな流れを載せ③そののち森館長の文章などは当てにならないとしっかりと認識したうえで「ジュンク堂」の歴史の書架の写真を載せます④尚、現代史＝現代社会の国際紛争史等につきましては「館長の社会論サイト」の最後のほうの「趣味」の特別の項目の後ろに載せています。

歴史を学ぶ理由について、まず志成館の最近のASSETSを転記します(志成館サイトにも)

**戦争がなぜ起こるかわからない**

中学生 星 卓澄  
(千葉県 13)

戦争とは、国家が自国の意思に相手国を従わせようとして、互いに武力を用いて争うことだ。資源を欲しいがために、排他的経済水域を広げたいがために、武力を見せつけ合うことで、話に決着をつけようとするのだろう。

しかし僕は、こんなことがなぜ起こるか全くわからない。なぜ話し合いに武力が必要なのか。両者が全く譲らず、進展がないからだろうか。それとも戦に強いことが判断の物差しになるのだろうか。確かに、身近な例で考えてみると、話し合いが全く進まないこと

はよくある。だが、武力を使うことが最善の方法なのか。僕はそうは思わない。例えば小学生が、話し合いが進まないから殴り合いで勝った方の意見を採用しよう、なんてことがあるだろうか。

国と国の関係は小学生の例とは規模が違うが、根は同じだろう。長い年月をかけてすべき話し合いを放棄し、大量殺人を開始するのは何とも非人道的だ。

今書いたことはきれいごとかもしれない。世界がこれほどうまくいくわけではないだろう。しかし、この世界に「戦争」という言葉自体が存在しなくなったら、それは大変素晴らしいことである。

【上】は2017年5月23日の朝日新聞への中学生の投稿である。純粋な心を持った、人に優しく、平和を願う、勇気ある中学生の素直な言葉としてとてもうれしい投稿であると思っている。この投稿をした星君は決して「きれいごと」を言っているわけではない。人間がその存続をかけて戦わなければならない喫緊の(=急がなければならない)重大な課題について真摯に(=まじめに)取り組んでいる素晴らしい中学生であると思っている。志成館の館長の森は、このような問題意識をもって学び、世界の平和と豊かさを求め続けることができる中学生ができるだけたくさん育つように、日々懸命に頑張っている。その意味ではこの投稿を素晴らしい中学生のとても立派な問いかけであると思っている。

【答】この質問に対する答えは簡単ではない。君たちが一生をかけて「歴史」を学びそして考え続けなければならない課題であると言えるである。

つまりこのような重大な問題に対して自分で答えを見つけるには今後長い時間と膨大なエネルギーを注ぎ込んで「歴史」を学ばないと答えは見つからないということである。同時に「真の歴史を教えてくれる偉人に出会うこと」も必要である。

しかしASSETSなので、館長がいくつかの答えを準備したい。館長の個人的な考えと思って君たちはこのような考えに疑問を持つ権利がある。但し今後「歴史の真実をしっかりと学んだ後で」という条件付きである。それほど館長はこの歳になるまで「時間をかけて歴史の学習をしてきた」のである。尚、それでも「この程度なのか」と批判されても反論する資格も気持ちもない。このサイトの「目的」とは無関係だから。

1) まず中国の古代から周の後半の春秋戦国時代そしてさらには君たちが好きな三国志の時代そしてその後の中国の歴史、ヨーロッパ古代のギリシャ時代からローマそしてフランク王国から中世の王侯貴族が支配する時代、日本では弥生時代から戦国時代そして江戸時代までは、「基本的には武力に勝る民族や勢力が自分が都合が良いように世界を支配するために、武力で他者を従わせるための戦争をし続けた時代であった」とらえてほしい。これがこの時代までの戦争の本質＝戦争が起きる理由であった。確かにどの時代もどこの国でも一人一人の人々の幸せを願って戦ったヒーローやヒロインは数多い。しかし確実なことはどの時代の英雄であっても、基本的には自分または自分の一族の支配的地位を保つことを優先してきた。そのことは世界中に遺跡としての見事な城や大聖堂が今も存在していることが見事にそしてわかりやすく証明していると思う。支配者層は自分の強さや権威や富を誇示し支配的な地位を維持するためにこのような建造物を作ってきたのである。

2) しかしヨーロッパに「市民革命」が起こり、すべての価値は「一人一人の個人」にあり、「個人の幸せを実現するために国家社会がある」という考え(＝中学3年で学ぶ「公民」での「ホブズやロックやルソーたちの「社会契約説」の時代になってから、戦争の性格は大きく変わってくる。つまり戦争は国民国家の一人一人を幸せにするための戦いになっていくのである。支配者のための戦争ではなく、自国民(とりあえず＝本当はブルジョワジーの利益のためなのだが難しくなるのでこのように言う)を幸せにし、豊かにするための戦いになっていくのである。「自国」の国民の事だけを考え他国の事や他国民の幸せなど考えない時代に突入するのである。この段階に至ると科学技術の進歩と重なって、戦争は一層激しく大きく残酷になっていく。歴史で学ぶ「帝国主義」の時代である。アフリカやアジアの貧しくて力もない国への200年以上にわたる欧米の恐るべき植民地の支配のための戦争や、先進国どうして争った第一次世界大戦や第二次世界大戦の惨禍がその典型である。ひどく残酷な戦争であるのだが、しかしそれまでの独裁者(＝王侯貴族や将軍)の利益を守るだけの戦争よりはまだまだと考えるとほしい。ヒトラーや日本の軍国主義者たちのしてきたことには戦慄を覚えるが、しかし戦った理由は「自分の国の利益＝国益」であり、理解不可能なわけではない。

3) 悲惨な第二次世界大戦は死者だけで8000万人以上の被害をもたらしたが、戦後にはまた新しい戦争が始まった。資本主義陣営と社会主義陣営との間の戦争である。「冷戦」と言われるが、朝鮮戦争やベトナム戦争そしてアフガン戦争など目に見えるひどい戦いはこれまで続いてきた。資本主義社会の経済システムが良いばかりとは言えないが、社会主義や共産主義社会には経済または政治システム上の致命的な欠陥があるために滅びてしまっ、今や中国も旧ソ連＝ロシアも資本主義的な経済システムを取らざるを得なくなり、東西対立による戦争＝「冷戦」も基本的にはなくなった。

4) **それでも今も戦争は続いている。いったいなぜだろうか。**それは今でも戦争を続けることによって富を蓄積しようという「強欲」な人たちが世界中に存在するからである。マルクスの「資本論」によると資本は(資本家つまりお金持ちという意味ではなくお金そのものという意味である)自己増殖する宿命を帯びているのであり、資本主義社会が存在し続ける以上は富をめぐる戦いや戦争は終わることがないと書いてある。しかしこのような難しい理論がなくても世界中には強欲な人達がたくさんいることは君たちも知っているはずである。

5) わかりやすく結論を述べよう。実は世界には「**Death Marchant=死の商人**」と呼ぶべき人たちが企業がある。この人たちが会社はナポレオン戦争の当時から戦争に投資し戦争が起こるたびに大儲けをしてきた人たちである。そしてその保有する巨万の富を使ってさらなる戦争を起こしてもっと儲け続けようという人たちが企業があるのだ。その中には君たちも大富豪だとして知っている「ロスチャイルド」「モルガンスタンレー」「ロックラー」などという超有名な一族こそがその代表格である。アメリカでも「悪魔の商人」と呼ばれてきた人たちである。(ただ館長はこれらの人たちを「悪魔」とは思っていない。というのは世界中に惨禍をもたらした、もっと恐ろしかったヒトラーやムッソリーニや日本の軍国主義者たちをやっつけてくれたからである。)しかし今後もこれら「死の商人」は戦争を希望し、国の予算が軍事費(＝爆弾や兵器)に回ることを画策し、今後も政治の世界で大きな力を持っていくだろうと思う。(次の記事へ)

6) この投書をしている中学生やこの中学生と同じ気持ちを持っている志成館生に一つの提案をしたい。それは狭い地球、核爆弾で30回以上も世界中の人間を殲滅できる時代、温暖化現象などの環境破壊が進む地球、経済戦争の標的にされ国を維持することも生きていくこともできない国家や多数の貧困な人々がいる今の時代では、**「(国民)国家」という現在の世界の枠組みを乗り越えることが必要であるという**ことである。もう「自分の国」はオリンピックなどのスポーツだけのことにして、**政治も経済も環境も富も「世界国家」**を考える時代が来ているという提案である。**すべての考えの基本を「世界中のすべての人々が平和で仲良くそして豊かに暮らす時が来ている」という発想をすべきであるという提案である。**どうだろうか？君たちみんなで考えて議論してほしい。これから君たちの時代なのだから。

ついでながら、上記の「死の商人」についての志成館の ASSETS の上記の後ろに張り付けた部分を載せておきます。おそらく朝日新聞の記者がわざと中学生の投書の日と同じ日の新聞記事に載せたと思うのです。つまり「戦争になってもよいから会社が儲ければよい」という「敗戦の悲劇を味わったことをすっかり忘れてしまっている愚かで強欲な企業がある」という批判記事を載せたかったのだと思います。これは歴史の真実ですが「三菱ゼロ戦」という第二次世界大戦で使われた優秀な戦闘機がありました。その会社である旧財閥の「三菱」の名前がこの中にあるということは何とも歴史の醜さを感じるのは私だけではないでしょう。

「死の商人」の中には日本の企業の名前も・・・☹️



次にこの館長の社会論を考え出したころに書いた文章を載せます。

以下のこの文章に書いている歴史の流れは「中学校や高校の教科書」に合わせて書いたものです。ご理解してください。森館長は基本的には「階級国家観」で歴史の把握をしており、教科書とは少し異なります。

## すべての憎しみや差別そして憎むべき戦争の多くは「歴史への無理解や誤った認識」に基づくものである

(はじめに)

志成館の館長の仕事は学習塾の「先生」です。いつも君たちみんなの「成績が上がり」「行きたい高校や大学に進学」することができるように「日々の学習の手伝い」をしています。そして「希望の仕事ができるようになり」「希望の会社に入れたら」先生たちは、君たちのお父さんお母さんと同じように、「君たちが独り立ちできること」によって、親として先生としてやっとな責任を果たせたことになり、ほっとひと安心できる気持ちになります。

しかし君たち中学を卒業し高校そして大学を卒業して一歩社会に踏み出すと、目標や楽しみがたくさ

ん生まれると同時に、自分や自分の家族や友人にいろいろ解決困難な問題が降りかかってきます。会社や地域社会、さらに大きく日本や世界の動きまでもがかわるような大きな問題にも直面します。楽しいことはそのまま気楽に自由に楽しんでください。しかし降りかかってくる数多くの困難には慌てずに冷静にそして上手に乗り切る力と智慧が必要になります。そうすると「上手にそして楽しい人生を過ごし」「夢や希望を見つけそして実現していく」ためには、普段から、勉強だけではなく、いろいろな知識を身につけておく必要があるということに気が付きます。

だから先生の本当の責任は、成績を上げるだけではなく、「君たちの人生を充実させ、幸せを感じられるものにする」ことになります。ということは「よい先生」とは「君たち一人一人が幸せになれることにどれだけ役に立ったか」で判断されると思います。志成館の「館長の社会論サイト」は君たちが社会人として独り立ちし、このあとの長い人生を、まじめに、上手に、楽しく過ごし「充実した人生を過ごせる」ために「少しでも役に立つ知識を与えること願って」作りました。大げさに思える話や本当なのかと思う話や難しい内容もたくさんありますが、どれをとっても無駄なことはあまりないと思いますので読んでみてください。

### (今の社会)

まず、今の社会、今の世界を見渡してください。君たちの年代は夢と希望と楽しさに満ち溢れて生活している人もいるかもしれませんが、しかし、日々勉強に追われ、部活や習い事や学習塾などで時間に追われ、友達や親子関係で悩んでいる人の方が多いはず。さらに自分のことだけではなく、周りの人たちの生活を見てもみませんか。テレビや新聞やSNSで日本中や世界中で起こっていることを見てもみませんか。身近には昨日もいじめで自殺した中学2年生のニュースが載っていましたし、経済的な理由や家庭内の問題で苦しむ子供たちもたくさんいます。広く世界を見回しますと、世界中では人種、民族、宗教、そして経済的な利権をめぐる戦争や殺戮が続いており、それに巻き込まれて多くの子供たちが命を落とし、日本人もたくさん死んでいます。また大気や大地や海洋は汚染され、気象変動は不安定になるばかりです。多種多様な動物が次々に絶滅しています。資源が枯渇するのもそれほど遠くはないでしょう。世界中で仕事を求め生活を求めて移動する人々が後を絶たず、少数派の人々は差別や迫害を受け、君たちと同じ年齢の子供たちまでもが悲惨な生活を強いられています。先進諸国でも格差は広がるばかりで、仕事が厳しいことを理由とする離婚や子育ての放棄や家庭の崩壊、そして大きな事故や凶悪な犯罪は世界中で増えるばかりです。

このような社会の悪い面は変えていかなければなりません。より住みやすくしなければなりません。たとえ「今の自分には全く関係ない」から他人事だとほったらかしにしても、将来のいつ「自分が同じような困難に遭うかもしれない」からです。また将来の君たちの子供の幸せまでも君たちは考えておくべきなのです。世の中ではどうしてこんなことが起こるのだろうか、いったい社会の仕組みはどのようなになっているのだろうか。「どうしていろいろな問題を大人たちは解決できないのだろうか」と思うでしょう。今の時代は複雑で真実が見えにくく大人たちも有効な方法を考えられないのです。

### (さあ始めよう)

そんな時代だからまず「より住みやすい世界をつくろう」という決意をしてください。それと同時に「世界中の人たちと話し合い、連帯し力を出し合って協力をすれば明るい未来は可能である」ということを現実のものとして確信してください。そして今から行動を始めるのです。どこでもよいのです。しっかり学習して、どのようにすればよいのかを学んで、行動するのです。

そこで、まず「自然の法則」や「歴史の真実」などからはじめて基本的なことを身に着け、しっかりと学んで「真実を知り」「自分の可能性を信じ」、自分の幸せを求めることに全力を尽くすことが必要になります。人がいつまでも住める空気が保たれ、気候も安定し、資源にも不安がなく、人種や宗教や富をめぐる悲惨な争いのない世界にしようではありませんか。ジョン・レノンが名曲「イマジン」で訴えているように。この目的のためにしっかりと幅広い学習をして。これからは君たちの時代なのだから。さあ始めよう。まず歴史から。

### (宇宙と人類の誕生)

今から約137億年前

宇宙が誕生し

地球や月ができた

その地球に生命体が登場し

進化を重ねて

人類がおおよそ500万年前に現れ

幾多の進歩を繰り返し

今の人間ホモサピエンスが地球上に登場する

食べ物を求め助け合い争いあって

1万年前氷河期が終わるころには人類は世界中に散らばっていた

日本人を含むモンゴロイドは南アメリカの最南端まで到達した  
それぞれの地域で文明が発展していき  
今から5000年くらい前からメソポタミアやエジプトなどの地方で大きな統一国家が誕生する  
このころから歴史を詳しく勉強するのはその頃の遺跡が目に見える形で残っているからである

### (長い争いの歴史)

人類はこののち生きるという目的のためにおおくのいろいろな戦いを始めていく  
初期はこん棒や弓矢を使った戦いをしていたのであろう  
しかし今から4000年あまり前から鉄器の使用が世界中に広まるにつれて  
戦いの方も悲惨さもそれまでとは比較にならないほど残酷で大規模なものになっていった  
地球上のどこでも激しい戦が続く強いものが弱いものを支配していく長い争いの時代が来る  
3000年以上にも及ぶ人類の歴史は争いの時代だった  
その後の火薬の発明も、ノーベルによるダイナマイトの発明も、原子爆弾の発明も  
結局は武力による強い人間による人類の支配、主導権争いの道具に使われる運命にあった  
ヨーロッパではギリシャやローマ中心にさらにゲルマン民族やラテン民族の争い時代へ  
その東のオリエントではペルシャを中心にそして紀元700年以降はイスラム帝国を中心に  
アジアでは古くから中国やモンゴル中心に3000年ほど前から争いが激しくなる  
いつの時代も覇者は贅をつくし繁栄を極める、それがとても短い期間であったとしても  
他方では数多くの弱者は全てを奪い取られ支配者の威嚇におびえながらも懸命に生きてきた  
世界中で多くの国が興亡を繰り返す  
世界中で悲惨な戦いが繰り返されてきたのである  
中国では秦が統一し項羽と劉邦が争うまでの間に人口が三分の一に減少する悲惨な時代であった  
その難を逃れて米つくりの技術とともに移り住んだのが弥生人すなわち今の日本人である  
項羽と劉邦は格好良いと思うか戦国の覇権を争った暴君とみるかは君たちの自由である  
アレキサンダー大王やシーザーをどのようにみるかは自由である  
秀吉や家康をどのように評価するかは自由である  
確実なことはそれぞれの地域でいくさに強いものがその住んでいる地域を暴力的に支配して  
自分や一族や階級の利益と繁栄を求めて多くの人々を思い通りに支配をしてきたということである  
ピラミッドやコロッセオの偉容に驚嘆し  
万里の長城のスケールの大きさに圧倒されるのもよからう  
中世のヨーロッパの教会の美しさには心を奪われてしまうがよい  
しかし感動をただけでは君たちは必要なことの半分のことしか理解していないことになる  
これらの建築にかかわった多くの奴隷や抑圧されている人々の苦しみや悲しみ  
流されたおびたしい汗と血があることを知って初めてこれらの建造物の理解ができたと言える  
もし君たちがその時代に生きていたらどのような悲惨な人生になったか考えてみるがよい  
国王や君主などの支配者になることは確率上ありえないことは誰にでも理解ができよう  
間違いなく平民または奴隷の身分であったろう

その自分の姿が目に見えればならぬ君は無知であり盲目であると批判されても仕方あるまい

### (宗教の役割)

そんな武力の時代に抵抗もできない人々は「せめて心の中だけは人間らしく生きていたい」と願った  
人々は心の中で仏教やキリスト教やイスラム教などの「神」の力を借りそれを信じて人生を生き抜いた  
東南アジアに残る仏教の巨大な遺跡や日本の華麗な仏教遺跡や建造物は素晴らしい  
日本の仏像の優しい魅力にうっとりとし鋭いまなざしにふと自分を取り戻すことがあると思う  
キリスト教ではローマのバチカンのサン・ピエトロ寺院の素晴らしさは神が存在すると思わせる  
パリやケルンやザルツブルグの教会の美しさに誰もが圧倒される  
イスラム教のモスクの美しさは格別である  
どの建物にも弱い立場の人間が神にすがる強い執念と信心深い心が見えるではないか  
しかしこれらの豪華な建築物もその時々の権力者は自分の支配を正当化し威厳の維持してきた  
多くの人々の心を従わせるために信仰心を利用したことに間違いはあるまい  
しかしそれでも宗教がないただ単に武力だけの時代よりは「まだまし」だったのである  
人々は「神」によって救われたのである  
私たちは現在これらの信仰心の具現化された教会の素晴らしさを見るために世界中を旅行している  
しかし私たちはこれらの建設に費やされた膨大な人々のエネルギーを理解しなければならない  
建造の歴史的背景や目的を理解しなければならない  
たとえ厳しい時代では生きていくには良いこと一つもなくとも  
死んだあと天国に行き神に祝福されるのなら厳しい現生でも我慢ができようというものである

少なくともこの時代は神や宗教がない時代よりはまだましだったのである

しかしこのような歴史の流れの中でイスラムとキリスト教が同居し続けた東ローマそしてイスラム諸国家の中＝広く「アラビア」と言われる地域に住む人が「現代」を形作る「英知」が温存していく。今では悲惨な戦争や飢餓に苦しむ「イランやシリアの地域」にギリシャやローマ時代の文化を受け継ぎなおかつ東方と西方の文化を融合させた素晴らしい文化や科学が守られていったのである。そして東洋との交易に力を注いだ北イタリアの人々がこれを見つけ出し時代を変えていくのである

### （ルネサンスの始まり）

「神」に頼った生活をしてきたが神は一部の恵まれた人を除いて多くの人間を救ってはくれなかった。まさしく諺どおりに「天は自らを助ける者しか助けてくれなかった」のである。そこで人は「神」に頼るのではなく「人間を信じよう」という考えに変わっていった。「人」を信じれば創造的なアイデアを持った多種多様な人間が歴史の舞台に登場する。美しさをたたえそれを描いたり彫ったりする芸術家が現れる。

「聖書に頼る」のではなく論理的で科学的な思考で真実を求める人間も現れる。

お金儲けのために世界中を冒険する人間は一層元気になる。

ダンテに始まりダ・ビンチやミケランジェロの芸術家たちであり

コペルニクスやでありガリレオ・ガリレイの科学者たちであり

コロンブスであり、バスコ・ダ・ガマであり、マゼランの冒険家たちである

ルターやカルバンは教会の権威を疑い宗教の教義を変えようとしていった

人類の近代化に貢献した人物の名前を数え上げたらきりが無い

この個人を解放するという流れはさらにいろいろな分野で大きな流れを作って時代を変えていく

### （「個人の尊重」の時代の到来）

一つはそれまでの支配者の持ち物であった「人間を独立した人格者とし認めようという動き」である。人間は生まれながらに人間として生きていく権利を有するという考えである。

そのためには社会を自分たちで統治するの必要を感じ始める

ジョン・ロックやモンテスキューやルソーのような思想家の果たす役割は大きかった

そして一人一人が生まれながらに持つ権利を実現するためにはまず個人を支配する王侯貴族をなくさなければならぬことに気が付きまず何よりもこれらの支配階級を打ち倒す運動が起こる

「市民革命の時代」がやってきたのである

市民革命は国により時代も内容も大きな差異があるが少なくとも多くの近代国家では経験した

そして自分たち一人一人が幸せになるために社会のみんなと契約をすることになる

そしてその契約書である憲法に従って国を動かしていこうという時代が来るのである

「立憲主義の時代いわゆる近代国家」の始まりである

人々は社会のみんなと契約をすることで憲法を作り自分たちで国を運営する権利を獲得したのである

自由主義や民主主義そして立憲主義の世界は「神」や「独裁者」が思うままに支配した時代からは想像もできないほど素晴らしい時代であることは誰にでも簡単にわかることと思う。

### （資本主義経済秩序の台頭）

もう一つは個人をカトリック教会の厳しい掟（おきて）から解放した流れである

カトリックはそれまでの人間の活動に厳しいルールを課していた

たとえば利子をとってはいけない、お金儲けをすることは人間として恥ずかしいことであるなどと

ユダヤ教徒はイエス・キリストを認めていないことは知っていると思う

このことを理由に世界中のユダヤ教徒はカトリックの世界から迫害された

仕方なしにユダヤ教徒は卑しむべき金融活動に専念してしか生きる方法がなかった

今でも世界中の大金持ちにユダヤ教徒が多いのはそんな悲しい理由からである

カルバンはローマ・カトリックのこの禁欲的な考えを解放した

人間がその心の中にある欲を満たすことには何ら問題もないと認めたのである

商売に励みお金を稼ぎ利子をもってより人間的に生きて行ってもよいのだと人々は彼を歓迎した

世界中の多くのキリスト教徒がカルバン派つまりプロテスタントに改宗していった

そして経済的な豊かさ早い話が神に祝福されたお金儲けにまい進する時代が始まっていくのである

そして18世紀後半のイギリス産業革命により庶民の物質的な豊かさは飛躍的に伸びていくのである

スミスは「人が物質的な豊かさを求めて競えば最終的にはみんなの豊かさを導きすべての人々を幸せにする」と主張した

古典派経済学の誕生であり同時にスミスやミルを中心とした「自由」の時代が始まっていくのである

良くも悪くもこのような考え方は今日までの社会を形成していく原動力となっていくのである

「資本主義の時代」の到来である

政治的には「自由主義の時代」である



この流れは物質的な豊かさを求めて個人が「富」を追い求めることが今日までの世界を作り上げていく  
利益を得るために様々な経済活動が始まっていく

利益を大きくするためにいろいろな産業上の発明がなされていく

### 「産業革命の時代」の到来である

発展した技術と大量生産品の販売さらには原材料の供給を求めて先進国は世界中に乗り出していく  
文化の発展が遅くおよそ武器とはいえるようなものなどを持たない国々はその標的とされていく

まずアフリカそして南アジアさらには東アジアが富を求める人々や国家の標的となっていく

この流れは遅れた国々を悲惨な状況に追いやった

いや過去形ではなく正確には今もその状態が続いているのである

強い軍事力をもつイギリスやフランスやオランダはその軍事力をもとに世界を侵略し始める

世界中の弱い国々を原料材料の供給地としてまた作った製品の販売地としての支配を強めていく

いうことを聞かない民族や地域はこれらの軍事力がある国々に支配され植民地となっていくのである

### 「帝国主義の時代」である

「パイレーツ・オブ・カリビアン」という映画がある

これをただ名優ジョニー・デップの滑稽な楽しい映画とみるかそれとも

この映画は帝国主義を面白くそして悲しく批判した映画だと読み取れるかで君の人間的評価は変わる

アジアでも日本は幸運にも時の指導者である井伊直弼の英断があったから植民地化をまぬがれた

不平等条約を結ばされたがこれを拒否していたら中国と同じ運命をたどっていったであろう

ヨーロッパでは帝国主義と呼ばれる国々の中にも早く産業革命を起こし世界中を支配した国々と

ドイツのように産業革命が遅れた国々で市場や植民地支配をめぐる争いが始まる

世界大戦の予感である

20世紀になると富を求める国々は貧しい国々に対して銃や財産を奪い取るだけでは事足りず

先進国通しでお互いの支配地域の分捕り合戦を公然とし始める

教科書では「2度の世界大戦」という章立てになっているところである

### 「第一次世界大戦と第二次世界大戦」の時代である。

総力戦というすべての国民を巻き込んだ先進国間の悲惨な大戦争の始まりである

二度というがその間は20年しかなく一連の帝国主義戦争と解した方がわかりやすい

正確な数字は分からないが第一次世界大戦ではおよそ800万人以上

第二次世界大戦ではおよそ9000万人の命が奪われていった

そしてその何倍もの人が体と心に傷を負った

まだ100年以内のことなので身近なこととして理解できる人が多いと思う

1949年生まれ館長は長い間第二次世界大戦の被害者たちとともに生活してきた

隣近所に戦争で親を亡くした兄さんや姉さんが生活していた

戦争の恐ろしさや平和の尊さを身に染みて感じ平和を願って生きてきた

### （資本主義社会とは）

資本主義社会とは個々人が持っている財産と技術をもとに自由に生産活動をし

自由に商売をしてお金儲けをして豊かに暮らせる社会である

キリスト教特にカトリックが支配する中世までは世界中のどこにもない考えであり

イスラム教なども基本的にはこのような考えは許されていません

だからキリスト教徒はイスラム教を自分たちの考えに合わないといって憎み

他方イスラム教徒はキリスト教徒の「欲ボケの醜さ」が許せないのです

この「欲望の体系」（ドイツの有名な哲学者ヘーゲルの言葉）と呼ぶべき資本主義の仕組みの中で

「人間」は豊かになろうとして懸命に努力を積み重ねていきます

そして産業革命という大きな技術革新が起こり富の蓄積の速さが広まり

国と国の競争が激化していくという宿命を持った社会である

この仕組みでは戦争が避けられないということは誰にでもわかるはずであろうと思う

第一次世界大戦や第二次世界大戦は起こるべくして起こった戦争であり

この争いは今も世界中で続いているのである

先進諸国の内部でも豊かな富を持つ人々と体一つの労働者との格差が広がり始める

一方では事業の発展のために安い労働力に頼って利益を上げて生き残ろうとする企業群

他方では少しでも賃金を多く獲得して豊かな生活を願う労働者との争いも始まっていく

19世紀は労働者の運動の世紀でもあった

血塗られた労働者への弾圧の歴史と無産者の激しい戦いは悲惨極まるものであった

ヨーロッパ先進国ではワイマル憲法として一定の範囲で労働者の利益も考慮した国も出来はじめる

世界に誇れる日本国憲法25条などはこの憲法をもらったものである

## (資本主義でない社会は可能か)

他方ロシアでは貧富の差をなくすために労働者を中心の社会をつくらうという動きが起こった  
ロシア革命でありソビエト社会主義共和国連邦でありその後の中国の中華人民共和国の建設である  
しかしこの高潔で素晴らしいと思われた革命はことごとく失敗に終わる

それは誰がどのようにして企業を維持し国の産業を発展させるのかという経済の仕組み問題  
社会への貢献に対して褒美なしに人間がやる気を起こせるのかというわがままな人間の本質の問題  
などの点で致命的な欠陥を持っていた

結局はどの国も独裁者による抑圧の政治に墮して理想とは裏腹に国民を不幸にする国になった  
ロシア革命を起こした旧ソ連は1991年に消滅し資本主義社会への道歩くことになる  
中国も20世紀後半からその建前とは裏腹に国家資本主義というべき資本主義社会になっている  
だから欠陥は多いにしてもやはり自由な行動と豊かさを求める人間の心理に合った資本主義そして  
自由主義と民主主義は尊重される必要がある

社会主義や共産主義の理想はわかるし素晴らしいものであるとも思う

しかし俗っぽい私にはとても高邁すぎてついていけないだろうと思うのである

古い言葉「プロテスタンティズムの論理と倫理」(M・ウェーバー)は前提としなければなるまい  
しかし今の時代に必要な「新しい経済システム」を求める経済学者は多い

館長も実は自分のライフワークは「新しい社会経済システムの構築」と考えて生きてきたのである  
自分の能力以上の「大ぼら」を吹いて恥ずかしいとは思っているが本気である

ローマ法王庁＝バチカンから招請を受けたことがあり

ノーベル経済学者を育てた世界を代表する政治経済学者である故宇沢弘文さんや

フランスの知性であるジャック・アタリさんの思想の中に未来があると思って今も学んである

志成館のASSETSなどで生徒たちにも「これらの偉人の名前」を将来のきっかけとして教えている  
しかしいずれにせよ世界の人々が認識しているはっきりとした未来はまだ描かれていない

## (資本主義周辺の国家群)

旧植民地であるアフリカや西アジアは産業革命以降ヨーロッパ諸国に破壊されつづけたままである  
黒人奴隷の時代から、土地も、資源も、人間も略奪され続けられるままの歴史である

現在の北アフリカや西アジアの貧困や開発独裁やその他の混乱の原因を作った大もとはイギリスであり  
フランスでありオランダでありベルギーである。今も資源の争奪戦の中でアメリカ、EU、日本、中国、  
ロシアの先進諸国にいじめられっぱなしで、国際連合が少しは力になっているが、国連もアメリカなど  
の世界の支配国の都合で動く側面が大きく、十分に機能を果たせていないのである。たとえばスターバ  
ックス・コーヒーがアフリカでしている地元の産業破壊(別のところに掲載)や国家略奪の姿を見て  
いるからアフリカではアメリカに対するテロが多いのである。日本の「ニッキ」という会社の従業員数名  
がアフリカの「マリ」という国で殺されたのもアフリカの人から見れば同じように自分の国を破壊して  
いると見えたからである。確かにこれらの会社は地元の発展には尽くしているようにも見える。しかし  
それ以上に自分の会社が儲かるからそのようにしているのであるから恨まれてもやむを得ないと言え  
よう。どのように公平な目で見ても「自分の会社の発展のほうがその国の発展よりも大切である」と考  
えていることは誰にでもわかることであろうし競争に勝つことでしか生き残れない資本主義社会を前  
提とする以上はやむを得まい。

その意味では「サイクス＝ピコ協定」で考えられていたことや「バルフォア宣言」についての知識が  
少しでもあるなら、ニューヨークのテロ事件や最近のISイスラム国の行動にも理解できるはずである。  
とても許せる行為ではないが、自暴自棄になっている人々や資本主義の野蛮さに怒りを持っている人た  
ちの気持ちだけは理解できないこともなかろう。だからヨーロッパの移民の国からイスラム国に行って  
共に戦おうという若者がふえているのである。アフリカのマリの難民が地中海に押し寄せているのもヨ  
ーロッパに移民が多いのも長年のフランスの政策に責任があるともいえる。歴史の勉強ではこの程度ま  
で理解しておく必要がある。難しいと思わないでほしい。すべて山川出版社の「高校の参考書」に載っ  
ている内容なのだから。

## (国際連合の可能性)

二度の世界大戦後このような悲劇を繰り返さないように国際連合が設立された

貧しい国々の救済のためにいろいろな期間を設けている

この国連はこれまでに多くの実績を上げてきた

未解決の問題は山ほどあるがそれなりの成果は上げてきた

このようなことから君たちは

現在は先進国がお互いに助け合い話し合っって情報を交換しあい

悲惨な戦争を避け得る時代になっているように見えるし

世界の貧富の格差もいっその経済の発展でいつかはなくなるであろうと考えていることと思う

そうであることを望みたい

アダム・スミスが言ったように「神の見えざる手に導かれて」みんなが幸せになれるはずであったからただスミスの理論は誤解されており「神に見えざる手」も彼の20年前に書かれた「道徳感情論」という本で修正すべきでありこれがしっかり理解されておれば今の経済社会もこんなにひどくなかったであろうと思われる。それよりもマルクスの理論も考慮してその長所を取り入れたケインズ理論が時代に合っているだろうと思う。詳細は「館長の社会論サイト」の経済理論の項を読んでほしい

しかしまだ世界はそのようにはなっていない

日本国憲法は国際連合による世界をイメージして作られた憲法である

しかしながら世界はまだその理想（＝世界人権宣言の内容）とはほど遠い状態にある

しかし国連の未来は日本国憲法の目指す未来と同じである

だから素晴らしい憲法を持った日本が問うことは君たちが国際連合をリードし、平和で豊かで環境が整った世界の構築に向けてリードしていかなければならないのである

### （理想と現実のはざままで）

君たちのお父さんお母さんは好きな仕事をして楽しい人生を送っておられる方もいるでしょう

多くのお父さんやお母さんは厳しい労働環境の中で懸命に君たち子供を育てておられます

そして君たちの笑顔を生きがいにして辛いことも我慢をして働いておられます

企業はコンピューターや労働管理システムが徹底して、休む間もなく密度の濃い仕事を要求しています

一部の管理職や専門職独占企業の従業員など除いて十分な賃金を得ているようには思えません

老後の安定した生活や現在の生活の豊かさを保障されることもなく

多くの人が臨時雇用としてとても不利で不自由な労働環境で働き続けておられます

これらは色々な統計の数値から判断しています

これだけ機械や技術が発展しているというのに

これだけ安価に食品や衣料や家屋が作れる時代なのに全く豊かになれない

心も体もゆったりとはできない

何かおかしいと思いませんか

実は今の世界は100年前の時代と全く変わらないのです

企業は存続をかけて毎日厳しい戦いを強いられています

会社の倒産のニュースを聞くことや近くの店がいつの間にかなくなっているという経験が多い

世界で戦う多国籍企業は政府の力を借り他国の会社や国家の政策と戦う日が続いています

昔も今も企業戦士でありその活動範囲が世界中に広がっているだけなのです

優雅な外観とは異なり企業家も神経をすり減らす努力をしているのです

一つの契約の成否が一つの国の繁栄に直接かかわってくることも頻繁にあります

武力を使わないが世界の富をめぐる情報戦争は世界大戦の時よりも厳しいと言えるでしょう

君たちの目にはまだ見えないかもしれません

しかし自分で事業を始め会社に入って働き始めると今の時代がどういものかわかると思います

どうして？なぜそんな競争や争いをするのか？不思議でしょう

それは先に述べた資本主義社会という競争社会の仕組みに欠点があるからである

「資本主義の社会では個人でも会社でも他人や他の会社よりも大きな利潤を上げないと存続できない」という宿命を持っている社会だからです

だからと言って、先ほど述べたように新しいよりよいシステムは見つかってはいない

（館長はケインズやロビンソン女史が唱える完全雇用と福祉優先の社会を目指しているが…別掲）

しかしこのままでは資源が枯渇し環境が破壊され地球上に人が住めなくなる日は近くなるばかりです

人間の心もそんなに強くないので優しさや思いやりの気持ちがいつかは無くなるかもしれません

私が尊敬する宇宙物理学のスティーブン・ホーキングもフランスの政治学者のジャック・アタリも社会学者の見田宗介先生も「人類はもうそんなに長くは存続しえない」と発言しています

そうなってもよいのでしょうか

### （歴史を学ぶ理由のまとめ）

**君たちの「自分たちの力」で君たちの「自分たちの時代」を創るのです**

さあ歴史の勉強をしっかりとしましょう

そして世界中の人々が共に栄えて豊かにそして仲良くできる社会を探し求めましょう

君たち一人一人が生まれてきてよかったという人生を過ごせるような社会をつくりましょう

この長い文章では人間の歴史の概略を述べてきた

理由は「人類は確実に進歩してきたこと」を示したかったからである

しかし今も欠陥だらけの世界である

確かに欠陥だらけといっても今の時代は昔に比べると夢のような時代である

ということはこれから先もっと良い時代が作れるはずであるということができる

**しっかり学びましょう**  
**世界中の人々と話し合い**  
**心や考えを通じ合わせて**  
**自分も世界中の人々も幸せになり**  
**全ての地球上の人々が不自由なく暮らせる社会を**

※ 数日前に昨年 2016 年にノーベル医学生理学賞を受賞された大隅良典さんの講演会に行ってきました。高校の先輩にあたるということでぜひ聞きに行こうと思っていたのですが、幸いくじに当たって聞きに行くことができました。講演の中で先生は「常識を疑え」「権威を信じるな」そして「教科書の内容など 10 年で変わるとして学習しなさい」と話をされていました。このことから言えることは、**中学から高校までは歴史は教科書を信じてそのまま学ぶことが必要だが、大学に入ってから**は**自分から学び**自分が信じることを求めなければ「真実」は見つからないということだと解することができます。

次に大学以降の「歴史書」の書籍の有る場所をジュンク堂の書架で示します

まずは詳細な資料が残る前の時代の人類の歴史の研究分野「考古学」のコーナーの書架の紹介です・



続いて世界史、各国史、日本史、中国史  
そして歴史読み物の楽しいコーナー

世界史(個人史)



世界史(近代史)



## 各国史



## 日本史(通史)



## 中国史(『史記』等)



## 日本史(個人史)



## 中国史(歴史読み物)



(この項の最後につぎの文章を追加します)

ここ「歴史」の項では「広く歴史全般の学習方法について」述べています。これに対して「現代史」はアメリカ現代史と日本の現代史を含めて「現代史と今の世界情勢」で述べています。その箇所では源田藍の歴史を理解してください。同時に「この本だけはぜひ」読んでくださいのコーナーにも「現代の歴史を紹介する本」を重複して紹介して

います。その中のカレル・ヴァン・ウォルフレンの「日本に巣食う4つの怪物」という本の中の203ページからの「良い歴史と悪い歴史」の賞はぜひ読んでみてください、是非是非読んでください。その中の二つの記述をここに転記し説明します。それは次のようなものです。

イタリア人の哲学者ベネディクト・クローチェは「すべての歴史は現代史である」と言っている。(P.208)

このことの意味は「歴史というものは時代時代によって主張される真実が代わることがある。それは歴史を述べる人が、自分の生きている時代にふさわしい解釈をして歴史を語るからである。つまり歴史はその時代の必要性に応じて解釈が変わることがあり、その時代の状況を反映している」ということである。別項でもまた同じことを述べるが、特に現代史を語る場合は、一つにはこれまでの現代史が事実を意図的に曲げてきた権力者や富裕層のお金の力によって歴史が曲げられてきたことに対する真実に記述とともにもう一つにはこのままでは人間の将来は大変なことになり人類が消滅する可能性があるからこれを防ぐために当該の歴史の記述者が意図的な記述をしている可能性があるということだ。

ギリシャの世界最初の偉大な歴史家ヘロドトスは有名な「歴史」を書きましたが、彼の偉大さはホメロスの「イリアッド」や「ホメロス」は「神話」であるという「歴史と神話を区別したところ」にあります。ただ面白いことにホメロスの詩は「叙事詩」である程度史実を反映しており、それを信じたドイツ人の考古学者シュリーマンがトロイアを発見し莫大な富を得たことはみんなが知っている通りです。志成館の国語の時間に「叙事詩」「叙事詩」「叙景詩」「叙情詩」の説明の時にいつも使う逸話です(笑)。

ちなみに安倍総理はありもしなかった戦前の彼が憧れる「神話」を「歴史」であると強弁し、オバマはウクライナでロシアのプーチンが数々の悪行をしているという「神話」をつかってアメリカのひどい悪行という「歴史」をつかっています。このことはカレル・ヴァン・ウォルフレンやベンジャミン・フルフォードやノーム・チョムスキーやオリバー・ストーンの本物の力を借りて別項で真の「現代史」として紹介しています。

さて「人間の」歴史の把握方法はわかったと思います。

最後のほうで「歴史学の微妙な問題」についても少しは暗示がお分かりになったかと思います。

次に「社会科学」の一部としての人間の「法学理論」「憲法論」

さらに「経済学」「経済論」に広がっていきます。